

# 1 年 次 科 目

## 目 次

<b>専門支持分野</b>	生命・医療倫理学 …………… 70
形態機能学Ⅰ …………… 10	文学Ⅰ …………… 72
形態機能学Ⅱ …………… 12	文学Ⅱ …………… 74
生化学 …………… 14	哲学Ⅰ …………… 76
漢方・民間薬概論 …………… 16	哲学Ⅱ …………… 78
地域包括ケアシステム論 …………… 18	経済学Ⅰ …………… 80
<b>基礎看護学分野</b>	経済学Ⅱ …………… 82
看護学概論 …………… 22	薬学への招待 …………… 84
看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）………… 26	ジェンダー論 …………… 86
看護援助技術Ⅱ（日常生活の援助技術）… 32	日本国憲法 …………… 88
看護援助技術Ⅲ	情報処理演習Ⅰ …………… 90
（診断・治療に伴う援助技術）… 38	情報処理演習Ⅱ …………… 92
基礎看護学実習Ⅰ …………… 44	看護学生のための生物・化学 …………… 94
<b>専門実践分野</b>	看護学生のための数学・物理 …………… 96
高齢者看護学実習Ⅰ …………… 46	スポーツⅠ …………… 98
メンタルヘルス論 …………… 48	スポーツⅡ …………… 100
<b>看護総合分野</b>	英語 …………… 102
スタディスキルセミナー …………… 50	英会話 …………… 104
看護学研究Ⅰ …………… 58	中国語Ⅰ …………… 106
<b>教養・基礎分野</b>	中国語Ⅱ …………… 108
心理学 …………… 62	韓国語Ⅰ …………… 110
文章表現論 …………… 64	韓国語Ⅱ …………… 112
倫理学 …………… 66	フランス語Ⅰ …………… 114
看護倫理 …………… 68	フランス語Ⅱ …………… 116

講義コード	1N21101
講義名	形態機能学 I
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	火曜日
代表時限	2時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	形態機能学科目
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 清水 典史	基礎教育講座 薬学教育推進センター 基礎生物学分野

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1.人体の構造と機能について説明できる。

2.生命維持と生体機能の調節について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第 1 回	清水 典史	講義ガイダンス 形態機能学とは 形態機能学のための基礎知識	講義の進め方、履修上の注意など 形態機能学とは 形からみた人体 体表から蝕知する人体の構造、人体の構造と区分、人体の部位と器官 素材からみた人体 人体とは、細胞の構造、細胞を構成する物質とエネルギーの生成	講義
第 2 回	清水 典史	形態機能学のための基礎知識	素材からみた人体 細胞膜の構造と機能、細胞の増殖と染色体、分化した細胞がつくる組織 機能からみた人体 動物機能と植物機能の器官系、体液とホメオスタシス	講義
第 3 回	清水 典史	栄養の消化と吸収	口・咽頭・食道の構造と機能、腹部消化管の構造と機能	講義
第 4 回	清水 典史	栄養の消化と吸収	膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能、腹膜	講義
第 5 回	清水 典史	呼吸と血液のはたらき	呼吸器の構造 呼吸	講義
第 6 回	清水 典史	呼吸と血液のはたらき	血液 1	講義
第 7 回	清水 典史	呼吸と血液のはたらき	血液 2	講義
第 8 回	清水 典史	血液の循環とその調節	循環器系の構造、心臓の構造	講義
第 9 回	清水 典史	血液の循環とその調節	心臓の拍出機能	講義
第 10 回	清水 典史	血液の循環とその調節	抹消循環系の構造、血液の循環の調節	講義
第 11 回	清水 典史	体液の調節と尿の生成	腎臓	講義
第 12 回	清水 典史	体液の調節と尿の生成	排尿路、体液の調節	講義
第 13 回	清水 典史	内臓機能の調節	自律神経による調節	講義
第 14 回	清水 典史	内臓機能の調節	内分泌系による調節、全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義

第 15 回	清水 典史	内臓機能の調節 形態機能学 I のまとめ	ホルモン分泌の調節、ホルモンによる調節の実際 形態機能学 I のまとめ	講義
<b>授業概要</b>				
<p>形態機能学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護職を含む医療専門職の教育において最重要かつ基盤となる。人体の正常な構造と機能の学びがもとになり、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づき診断と患者への治療や看護が行われる。患者への医療行為は、人体への様々な介入が含まれるため、人体の構造と機能についての理解は必要不可欠である。</p> <p>人体において営まれている様々な生命現象は、生命を維持するはたらきと生命を活用するはたらきがある。形態機能学 I では、血液循環、呼吸、消化・吸収、代謝、排泄、内分泌などの生命を維持するはたらきについて学ぶ。</p>				
<b>授業形式</b>				
<b>講義</b>				
<b>評価方法</b>				
■定期試験 定期試験 100%				
<b>教科書 (ISBN 番号)</b>				
系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能①解剖生理学第 10 版 医学書院				
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>				
月曜日、木曜日の 13:00～17:00 ですが、それ以外の時間でも質問は可能な限り受け付けます。不在の場合はメール (shimizu@daiichi-cps.ac.jp) にて対応します。				
<b>学生へのメッセージ</b>				
本講義および形態機能学 II で、看護師に必要なヒトの身体に関する知識を全て網羅します。本講義で得られる知識は、今後学んでいく薬理系科目の土台となるので、分からないことがあれば気軽に質問し、しっかりと知識を身につけて下さい。				
<b>授業用 E-mail</b>				
shimizu@daiichi-cps.ac.jp				

講義コード	1N21200
講義名	形態機能学Ⅱ
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	形態機能学科目
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
准教授	◎ 高村 雄策	医薬品化学・物性学講座 薬物解析学分野

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

- 1.人体の構造と機能について説明できる。
- 2.生命維持と生体機能の調節について説明できる。
- 3.生命誕生、成長と老化について説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	高村 雄策	講義ガイダンス 身体の支持と運動	講義の進め方、履修上の注意など 骨格とはどのようなものか、骨の連結、骨格筋、	講義
第2回	高村 雄策	身体の支持と運動	体幹の骨格と筋	講義
第3回	高村 雄策	身体の支持と運動	上肢の骨格と筋、下肢の骨格と筋	講義
第4回	高村 雄策	身体の支持と運動	頭頸部の骨格と筋、筋の収縮	講義
第5回	高村 雄策	情報の受容と処理	神経系の構造と機能	講義
第6回	高村 雄策	情報の受容と処理	脊髄と脳	講義
第7回	高村 雄策	情報の受容と処理	脊髄神経と脳神経、脳の高次機能	講義
第8回	高村 雄策	情報の受容と処理	運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路	講義
第9回	高村 雄策	情報の受容と処理	眼の構造と視覚、耳の構造と聴覚・平衡覚	講義
第10回	高村 雄策	情報の受容と処理	味覚と嗅覚、痛み(疼痛)	講義
第11回	高村 雄策	身体機能の防御と適応	皮膚の構造と機能、生体の防御機構	講義
第12回	高村 雄策	身体機能の防御と適応	代謝と運動、体温とその調節	講義
第13回	高村 雄策	生殖・発生と老化のしくみ	男性生殖器、女性生殖器	講義
第14回	高村 雄策	生殖・発生と老化のしくみ	受精と胎児の発生、成長と老化	講義
第15回	高村 雄策	形態機能学Ⅱのまとめ	形態機能学Ⅱのまとめ	講義

授業概要

形態機能学は、人体の「構造」と「機能」を学ぶ学問であり、看護職を含む医療専門職の教育において最重要かつ基盤となる。人体の正常な構造と機能の学びがもとになり、病気の成り立ちが理解されるようになり、それに基づき診断と患者への治療や看護が行われる。患者へ医療行為は、人体への様々な介入が含まれるため、人体の構造と機能についての理解は必要不可欠である。人体において営まれている様々な生命現象は、生命を維持するはたらきと生命を活用するはたらきがある。形態機能学Ⅱでは、運動、感覚、神経などの生命を活用するはたらき、また皮膚、免疫系、代謝と運動、体温調節、生殖・発生と老化のしくみである人体を保護して種を保存する機能について学ぶ。

授業形式
講義
評価方法
■定期試験 定期試験 100%
教科書 (ISBN 番号)
系統看護学講座専門基礎分野人体の構造と機能①解剖生理学第 10 版 医学書院
オフィスアワー(授業相談)
初回講義時にお知らせします。

講義コード	1N21300
講義名	生化学
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	形態機能学科目
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長田 茂宏	生命薬学講座 分子生物学分野
助教	岡崎 裕之	生命薬学講座 分子生物学分野
准教授	廣村 信	臨床薬学講座 処方解析学分野
講師	香川 正太	医薬品化学・物性学講座 天然物化学分野(漢)

#### 到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1. 生体を構成する物質の基本的な構造を理解できる。
2. 糖質や脂質の構造や代謝について理解できる。
3. 栄養およびエネルギー代謝について理解できる。
4. 蛋白質とアミノ酸の関係や代謝について理解できる。
5. 核酸の構造と機能や代謝について理解できる。
6. 酵素の役割と酵素反応について理解できる。
7. ホルモンや細胞内伝達系などの情報伝達機構について理解できる。
8. 生体内の器官について理解できる。
9. 遺伝子の生化学について理解できる。

#### 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	岡崎 裕之	生体を構成する物質1	代謝とその制御、細胞の基本構造	講義
第2回	岡崎 裕之	生体を構成する物質2	糖類、脂質	講義
第3回	岡崎 裕之	生体を構成する物質3	アミノ酸、タンパク質、核酸、ビタミン	講義
第4回	岡崎 裕之	生体を構成する物質4	酵素	講義
第5回	廣村 信	生体内の物質代謝1	糖質代謝	講義
第6回	廣村 信	生体内の物質代謝2	脂質代謝1 脂肪酸の分解と合成	講義
第7回	廣村 信	生体内の物質代謝3	脂質代謝2 コレステロール合成、その他の脂質代謝	講義
第8回	廣村 信	生体内の物質代謝4	タンパク質とアミノ酸代謝	講義
第9回	長田 茂宏	生体内の物質代謝5	核酸、ヌクレオチドの代謝	講義
第10回	長田 茂宏	生体内の物質代謝6	遺伝情報の発現	講義
第11回	長田 茂宏	生体内の物質代謝7	遺伝子と疾患	講義
第12回	香川 正太	代謝異常症1	エネルギー代謝の統合と制御	講義
第13回	香川 正太	代謝異常症2	先天性代謝異常1	講義
第14回	香川 正太	代謝異常症3	先天性代謝異常2	講義

第 15 回	岡崎 裕之 廣村 信 長田 茂宏 香川 正太	総括	まとめ:生化学から看護専門科目への橋渡し	講義と演習
<b>授業概要</b>				
<p>生化学はヒトの生命現象やその病的変化を探索する上での基礎学問である。  生体を構成する物質の基本的な構造と機能について学び、それらがどのように代謝されているかを学ぶ。そして生命体を構成する各種器官について学び、それらの各種器官がどのように情報伝達され、制御されているかを理解する。また、生命体を維持するための栄養とその代謝について学ぶ。以上の生命現象の基本を理解することで、今後他の科目や臨床で出会うことになる各疾病には正常に機能していない反応がどこかにあり、その為に行う治療や投薬、食事がどのように反応を補助するのか考えるようになる。</p>				
<b>授業形式</b>				
教科書、パワーポイント等を中心に講義を行う。				
<b>評価方法</b>				
■定期試験 定期試験 100%				
<b>教科書 (ISBN 番号)</b>				
ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能②臨床生化学第 5 版 宮澤 恵二 編集 (MC メディカ出版) (ISBN978-4-8404-6128-3)				
<b>参考書</b>				
<p>ナーシング・サブリ イメージできる 生化学・栄養学「改訂 2 版」(ISBN978-4-8404-7222-7) ナーシング・サブリ編集委員会編(メディカ出版)  新体系看護学全書 人体の構造と機能② 栄養生化学 編者代表 脊山洋右(メヂカルフレンド社)  系統看護学講座 生化学 人体の構造と機能② 著者代表 畠山鎮次(医学書院)  集中講義 生化学 鈴木敬一郎ほか(メジカルビュー社)</p>				
<b>オフィスアワー(授業相談)</b>				
<p>岡崎裕之: 火曜日 13:00~17:00(h-okazaki@daiichi-cps.ac.jp)  廣村 信: 火曜日 13:00~17:00(m-hiromura@daiichi-cps.ac.jp)  長田茂宏: 水曜日 13:30~16:30(s-osada@daiichi-cps.ac.jp)  香川正太: 月曜日 13:00~17:00(s-kagawa@daiichi-cps.ac.jp)  * 不在の場合も含め、メールでも対応</p>				
<b>学生へのメッセージ</b>				
生化学はこの後に続く科目や実務の基礎となる。単に暗記するのではなく、理解するように努めること。				

講義コード	1N22700	
講義名	漢方・民間薬概論	
(副題)		
開講責任部署		
講義開講時期	後期	
講義区分		
基準単位数	1	
時間	20.00	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	専門支持分野	
科目分野名	疫病基礎理論科目	
対象学科・年次	看護学科・1年次	
必修/選択	選択	
担当教員		
<b>職種</b>	<b>氏名</b>	<b>所属</b>
准教授	◎ 久保山 友晴	医薬品化学・物性学講座 和漢薬物学分野

#### 到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー：(2)(4)

患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療ガイドラインを考慮した適正な薬物療法に参画できるようになるために、疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物療法に関する基本的事項を修得する。

漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。

○漢方の特徴について概説できる。

○以下の漢方の基本的用語を説明できる。

陰陽、虚実、寒熱、表裏、気血水、証

○配合生薬の組み合わせにより漢方薬の系統的な分類が説明できる。

○漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などの相違について説明できる。

○漢方医学における診断法、体質や病態の捉え方、治療法について概説できる。

○日本薬局方に収載される漢方薬の適応となる証、症状や疾患について例示して説明できる。

○現代医療における漢方薬の役割について説明できる。

○漢方薬の副作用と使用上の注意点を例示して説明できる。

#### 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	久保山 友晴	漢方・民間薬概論	民間薬と漢方薬の相違や定義	プリント・スライド講義
第2回	久保山 友晴	漢方医学の基礎理論	気血水、八綱弁証、陰陽五行論、六病位など	プリント・スライド講義
第3回	久保山 友晴	漢方の診察方法	望診、聞診、問診、切診	プリント・スライド講義
第4回	久保山 友晴	生薬	代表的な生薬の気味と薬能、修治	プリント・スライド講義
第5回	久保山 友晴	漢方処方(1)	代表的な漢方処方と服用方法	プリント・スライド講義
第6回	久保山 友晴	漢方処方(2)	代表的な漢方処方と服用方法	プリント・スライド講義
第7回	久保山 友晴	漢方薬の副作用	漢方薬の副作用と使用上の注意	プリント・スライド講義
第8回	久保山 友晴	漢方薬の新しい使われ方	漢方薬の新しい使われ方	プリント・スライド講義
第9回	久保山 友晴	漢方の歴史と現状	漢方・本草の歴史と現在の漢方・生薬事情	プリント・スライド講義
第10回	久保山 友晴	代替医療	日本と世界の相補・代替医療	プリント・スライド講義

#### 授業概要

生薬は漢方理論に基づいて使うときは漢方薬となり、単独もしくは伝承による使い方の場合は民間薬となる。これらの違いと有用性について学ぶ。日本においては、伝統的な医療の漢方医学、民間薬などがあり、また世界に目を向けると民族医療、民族薬があり、アーユルヴェーダ、ホメオパシーなどの伝統医学がある。これら伝承医薬・薬物を「代替医療」としての必要性を習得する。

授業形式
プリント配布およびパワーポイントを用いた講義
評価方法
■定期試験 定期試験(100%)により評価する。追再試験を実施することがある。
教科書 (ISBN 番号)
現代医療における漢方薬(改訂第2版)(南江堂)日本生薬学会監修(2016)、ISBN978-4-534-40314-1
オフィスアワー(授業相談)
水曜日 PM1:00-5:00 不在の場合にはメールにて対応
学生へのメッセージ
現在 9 割近い医師が漢方薬を処方しており、現代医療における漢方の役割は非常に大きいものになっています。本講義で「漢方・民間薬とは何か」を学び、臨床の現場で役立てていただきたいと思います。

講義コード	1N23100
講義名	地域包括ケアシステム論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	通年
講義区分	
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	水曜日
代表時限	1時限
科目分類名	専門支持分野
科目分野名	地域基盤教育科目
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 西地 令子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有
(非常勤)講師	河谷 はるみ	指定なし
准教授	園田 和子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有

#### 到達目標(SBO)

- ※対応するディプロマポリシー: (1) (2) (3)  
 ※対応するカリキュラムポリシー: (2) (3)
- 多様な地域看護活動について理解する。
  - 地域福祉に関する、概要(関係法規を含む)を説明できる。
  - 介護保険制度の成り立ちと改正の動向を説明できる。
  - 地域医療計画に基づき、医療提供体制について説明できる。
  - 地域での生活している、子どもから高齢者の人々がどの様に福祉・地域医療・介護保険と関わりを持ち、地域包括ケアシステムの中にいるのか説明できる。
  - 地域包括ケアシステムとしての今後の課題を述べることができる。

#### 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	西地 令子	講義ガイダンス 地域とは	講義の進め方、履修上の注意など 「地域」とは、地域における看護活動の意義	講義
第2回	西地 令子	地域医療①	医療の現状と課題、医療提供体制 わが国の看護師および医療従事者の現状と国際比較	講義
第3回	園田 和子	地域医療②	医療法と地域医療計画の概要	講義
第4回	園田 和子	地域医療③	看護職の変遷 保健師助産師看護師法までの経緯 保助看法制定後の看護師の役割・活躍場の変化	講義
第5回	園田 和子	地域医療④	訪問看護開始の背景と訪問看護ステーション	講義
第6回	西地 令子	地域看護活動①	地域看護活動の基本的理念 プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション	講義
第7回	西地 令子	地域看護活動②	健やか親子 21 の背景と概要、児童虐待の現状	講義
第8回	西地 令子	地域看護活動③	健康日本 21(2次)の背景と健康日本 21 の概要	講義
第9回	西地 令子	地域看護活動④	生活習慣病の現状と予防対策	講義
第10回	西地 令子	地域看護活動⑤	高齢者の現状と介護保険制度と地域包括支援センター	講義
第11回	西地 令子	地域看護活動⑥	障害者の現状と障害者対策の概要	講義
第12回	園田 和子	地域看護活動⑦	精神保健の課題と施策	講義
第13回	園田 和子	地域看護活動⑧	難病と難病施策の変遷とその意義	講義

第14回	園田 和子	地域看護活動⑨	がん対策基本法と対策基本計画の概要	講義
第15回	西地 令子	地域看護活動⑩	広がる地域看護活動:学校における健康課題と看護職の役割(学校保健)	講義
第16回	西地 令子	地域看護活動⑪	広がる地域看護活動:職場の健康課題と看護職の役割(産業保健)	講義
第17回	河谷 はるみ	地域福祉①	福祉の概念と意義:福祉とは何か、何を目指しているのか社会福祉の理念:ナショナルミニマムとは	講義
第18回	河谷 はるみ	地域福祉②	社会福祉の変遷と今後の方向性	講義
第19回	河谷 はるみ	地域福祉③	社会福祉法の体系、公的扶助(生活保護)と社会手当の概要、貧困・低所得者の課題	講義
第20回	河谷 はるみ	地域福祉④	児童権利宣言、わが国の児童福祉施策の変遷・機関・課題	講義
第21回	河谷 はるみ	地域福祉⑤	ノーマライゼーションと障害者権利宣言、わが国の障害者福祉施策変遷・機関・課題、	講義
第22回	河谷 はるみ	地域福祉⑥	高齢者権利宣言、わが国の高齢者福祉施策の変遷・機関・課題	講義
第23回	西地 令子	地域包括ケアシステム①	保健・医療・福祉をかかわる機関(まとめ1) 職種、保健所・市町村保健センターの役割、 医療施設、訪問看護ステーション、福祉組織・機関	講義
第24回	西地 令子	地域包括ケアシステム②	現在の家族問題と家族関係の調整、 自助、互助、共助、公助とソーシャルキャピタル	講義
第25回	園田 和子	地域包括ケアシステム③	地域看護管理:地域看護管理の概念・特性・機能 地域看護管理の実際	講義
第26回	園田 和子	地域包括ケアシステム④	地域包括ケアシステム ライフサイクルと福祉・医療・介護関わる職種と役割	講義
第27回	園田 和子 西地 令子	地域包括ケアシステム⑤⑥	地域包括ケアシステムの事例によってグループワーク① グループワーク「都市部(福岡市内等)の地域包括ケアシステムの実際を知り、課題を考えてみよう」	講義
第28回	園田 和子 西地 令子	地域包括ケアシステム⑤⑥	アシステムの事例によってグループワーク① グループワーク「都市部(福岡市内等)の地域包括ケアシステムの実際を知り、課題を考えてみよう」	講義
第29回	園田 和子 西地 令子	地域包括ケアシステム⑦	地域包括ケアシステム グループ発表	講義
第30回	西地 令子	地域包括ケアシステム論のまとめ	地域包括ケアシステム論の振り返りと理解度確認(まとめ2)	演習

#### 授業概要

ライフサイクルと社会福祉を柱に地域で包括的にケアをしていくシステム、地域看護活動について学ぶ。  
地域看護活動において、①地域看護活動の理念②地域の人々の健康と保健活動③地域保健・医療・福祉と法律④地域看護を取り巻く保健・医療・福祉の施策⑤様々な機関、職種との連携と調整⑥家族関係の調整⑦看護制度、看護行政⑧地域看護管理について学ぶ。  
社会福祉として、①子ども家庭福祉②障害児者と福祉③難病対策④高齢者と福祉⑤低所得者対策⑥地域福祉⑦社会保険では、医療保険と介護保険制度について概観する。  
社会に多様な価値観があることを知り、ライフサイクルにおいてどのような困難に陥るのかについて理解を深め、患者ではなく、一人の生活者であることをイメージする。また、福祉とは、「しあわせ」「ゆたかさ」を意味する言葉。すべての市民に最低限の幸福と社会的援助を提供する理念である。地域医療計画に基づいた医療提供体制を知り、地域で生活している住民の福祉・地域医療・介護保険を包括ケアシステムとして学ぶ。

#### 授業形式

講義、演習

#### 評価方法

■定期試験 ■その他(グループワーク評価)  
定期試験 80%、グループワーク 20%

#### 教科書 (ISBN 番号)

- ①「よくわかる地域包括ケア」(やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ) 隅田好美, 藤井博志, 黒田研二編集(ミネルヴァ書房)  
(ISBN978-4-623-08293-3C3336)  
②「新版 地域包括ケア サクセスガイド "住み慣れた地域で自分らしい暮らし"を実現する」田中 滋・岩名 礼介(メディカ出版)(予定)  
③「国民衛生の動向(最新版)」一般財団法人厚生労働統計協会

## 参考書

- ①「地域包括ケアシステムの深化 integrated care理論を用いたチェンジ」 筒井孝子著(中央法規出版)(ISBN978-4-8058-5941-4)
- ②「単身高齢者の見守りと医療をつなぐ地域包括ケア 先進事例からみる支援とネットワーク」 杉崎千洋・小野達也著(中央法規出版)(ISBN978-4-8058-5978-0)
- ③「国民福祉の動向(最新版)」一般財団法人厚生労働統計協会
- ④「よくわかる退院支援 全領域の実習に活用できる 地域包括ケアの実践が見える」戸村光著(学研プラス)(ISBN978-4-7809-1338-5C3047)
- ⑤「長崎発地域包括ケアトリハビリテーション これからの地域医療のかたち 救急車トリハビリテーション3」栗原正紀著(へるす出版)(ISBN978-4-89269-970-2C3047)
- ⑥「保健・医療・福祉のための専門職連携教育プログラム 地域包括ケアを担うためのヒント」柴崎智美・米岡裕美・古屋牧子編集(ミネルヴァ書房)(ISBN978-4-623-08553-8C3036)

## オフィスアワー(授業相談)

水曜日 12:30~16:00

※会議等で不在の場合もありますので、来室される時はできるだけメールをして下さい。

## 学生へのメッセージ

- ・地域包括ケアシステムは保健・福祉活動分野だけでなく、医療ケアにおいても重要な位置づけになっています。この科目を初年次に学び、看護職としての”地域の人々の生活やそれを支える多様な制度の基礎的な知識や考え方を定着する”を図ります。
- ・この科目はグループディスカッション等により、学習内容を深めて共有する方法を取り入れます。学生さんの主体的な学修を期待しています。
- ・予習、特に復習に重点を置いてください。近年の看護師国家試験は地域に関連した施策・法令が多く出題されます。学生さんにとっては、慣れない言葉が多く覚えにくいものも多く、繰り返し学習が必要です。
- ・携帯電話は鞆の中へしまい、講義中には使用しないこと、私語も他の学生さんへの迷惑になるのでしないでください。

## 参考 URL 1

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/kaigo\\_koureisha/chiiki-houkatsu/](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/kaigo_koureisha/chiiki-houkatsu/)

## 参考 URL 2

<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-11900000-Koyoukintoujidoukateikyoku/0000067539.pdf>

## 参考 URL 3

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou\\_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/kenkounippon21.html)

講義コード	1N31100
講義名	看護学概論
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	30.00
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
(非常勤)講師	岡本 靖子	指定なし

#### 一般目標(GIO)

近代・現代の代表的な看護理論から看護とは何かについて考察する。グループ学習により自分の考え・感想を他の人々に明確に表現する姿勢、および他の人々の考え等もよく聞く姿勢を身につける。

#### 到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー：(2)

1. 看護の4つの基本概念(看護・人間・健康・環境)について説明できる。
2. 看護の定義を述べることができる。
3. 看護の本質と役割・機能を説明できる。
4. 看護の歴史と変遷について述べることができる。
5. 看護専門職とは何かを説明できる。
6. 保健・医療・福祉における看護職の専門性と役割について説明できる。
7. 「看護覚え書」「看護の基本となるもの」と講義を通して看護について学んだことを説明できる。

#### 授業計画表

回	時限	担当教員	項目	内容	方略
第1回	4時限	長家智子	講義ガイダンス 看護とは(導入)	講義の進め方、履修上の注意 1. 看護とは何か、看護の目的、看護の対象 2. 看護の本質(人間・健康・環境・看護)、看護の定義	講義
第2回	4時限	長家智子	看護の歴史、看護と法	1. 看護の歴史 2. 看護と法、看護の目的、看護の対象	講義
第3回	4時限	長家智子	看護専門職	1. 看護の専門性、看護倫理 2. キャリアデザイン：CNS、NP、ANP、専門看護師、認定看護師 3. チーム医療における役割・	講義

第4回	4時限	長家智子	看護概念①	1. 看護の歴史、看護理論家の看護の概念 ナイチンゲール「看護覚え書」、ヘンダーソン「看護の基本となるもの」から看護を考える ナイチンゲールとの看護概念(人間・環境・健康・看護)	講義
第5回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念②	1. 看護理論家の看護の概念 ナイチンゲール「看護覚え書」、ヘンダーソン「看護の基本となるもの」から看護を考える	講義 グループワーク
第6回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念③	1. グループワーク・発表「看護覚え書」	講義 グループワーク
第7回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念④	1. グループワーク・発表「看護覚え書」 2. ナイチンゲール看護論についてのまとめ	グループワーク 講義
第8回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念⑤	1. グループワーク・発表「看護の基本となるもの」 2. ヘンダーソン看護論についてのまとめ	グループワーク 講義
第9回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念⑥	1. グループワーク ペプロウ、オレムの看護論から看護を考える。	グループワーク
第10回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念⑦	1. グループワーク ペプロウ、オレムの看護論から看護を考える。	グループワーク
第11回	4時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護の概念⑧	1. グループワーク ペプロウ、オレムの看護論から看護を考える。	グループワーク

第 12 回	4 時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念⑨	1. グループワーク「ペプロウ看護論」発表 2. ペプロウ看護論のまとめ	グループワーク 講義
第 13 回	4 時限	長家智子 権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護概念⑩	1. グループワーク「オレム看護論」発表 2. オレム看護論のまとめ	グループワーク 講義
第 14 回	4 時限	長家智子	看護経済 看護と政策	1. 医療制度の仕組みと医療経済 2. 看護行政と政策	講義
第 15 回	4 時限	長家智子	医療安全 看護学概論のまとめ	1. 医療安全と医療の質保証 2. 看護学概論の振り返りと理解度確認	講義

#### 授業概要

看護を学ぶ導入としてまた、今後の学習の土台となる科目として、「看護とは・看護学とは」など、看護の本質と役割を学ぶ。  
 看護の基本概念、人間・健康・環境・看護の4項目を基盤にして、人間の捉え方、健康の概念、健康・病気・ウェルネスの定義、健康障害を持つ対象の理解などを学修する。看護の定義、目的、機能など看護の本質を学ぶ。看護の歴史的变化や看護の変遷と看護の法制度、看護組織や体制、チーム医療での看護の役割、看護理論等について学ぶ。  
 看護概念の理解と、ナイチンゲール・ヘンダーソン・ペプロウ・オレムの考える看護についてグループワーク後、発表と討議をして看護について考えを深めていく。  
 看護について、理解したところで看護経済、看護の政策、看護の機能と業務、医療安全について学ぶ。

#### 授業形式

講義 グループワーク 発表と討議

#### 評価方法

■定期試験 ■レポート ■その他(グループワークの取り組み・成果)  
 定期試験 40%、レポート・グループワークの取り組み・成果 60%

#### 教科書 (ISBN 番号)

医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[1]「看護学概論」ISBN978-4-260-03862-1、  
 現代社 F.ナイチンゲール著/薄井坦子他訳 「看護覚え書き」ISBN978-4-97474-142-9、  
 日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン著 湯模ます・小玉香津子訳 「看護の基本となるもの」ISBN978-4-8180-1996-6

#### 参考書

その都度お知らせします。

#### オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

講義コード	1N31200
講義名	看護援助技術 I (看護基本技術)
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
(非常勤)講師	岡本 靖子	指定なし

一般目標(GIO)

看護の基礎援助技術の学習や実技演習を通して、対象者のニーズに応じた看護援助に必要な基礎的技術や態度を身につける。

到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー: (1) (2)

※対応するカリキュラムポリシー: (2)

1. 専門職として対象者の日常生活を援助する意義と、看護技術の持つ特徴・範囲を説明できる。
2. 患者と看護師の良い関係を築くための援助的人間関係を形成するコミュニケーション技術を説明できる。
3. 感染予防の技術を実施できる。
4. 療養生活における環境調整(ベッドメイキング等)の基本的な援助技術が実施できる。
5. 活動・休息の基本的な援助技術が実施できる。  
(良肢位、体位変換、移乗・移送、安楽な体位を保持する方法と休息・睡眠について)
6. ヘルスアセスメントの内容・方法を説明できる。

授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	長家智子	講義ガイダンス 看護技術を学ぶ	講義の進め方、履修上の注意、実習室オリエンテーションなど 1. 技術とは何か 2. 看護技術の特徴 3. 看護技術の範囲 4. 看護技術を適切に実施するための要素 5. 看護技術の発展と修得のために	講義
第2回	権藤多栄	感染防止の技術①	1. 感染防止の基礎技術 2. 標準予防策(スタンダードプリコーション) 3. 感染経路別予防策	講義
第3回	権藤多栄 溝口晶子	感染防止の技術②	1. 手指衛生(流水による手洗い、擦式手指消毒) 2. 個人防護用具(PPE)(手袋、マスク、ガウン)の着脱	講義 演習

	竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子			
第4回	権藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	感染防止の技術②	1. 手指衛生(流水による手洗い、擦式手指消毒) 2. 個人防護用具(PPE)(手袋、マスク、ガウン)の着脱	講義 演習
第5回	長家智子	コミュニケーション技術①	1. コミュニケーションの意義と目的 2. コミュニケーションの構成要素と成立過程 3. 関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義
第6回	長家智子	コミュニケーション技術②	1. 言語的コミュニケーション 2. 非言語的コミュニケーション	講義 演習
第7回	長家智子	コミュニケーション技術③	1. 効果的なコミュニケーションの実際 2. 看護におけるコミュニケーションの技法:聴く 3. 接遇、マナー	講義
第8回	溝口晶子	活動・休息の援助技術①	1. 基本的活動の援助 基本的活動の基礎知識(良い姿勢、ボディメカニクス) 2. 体位～安全・安楽、睡眠と休息	講義
第9回	溝口晶子	環境調整技術①	援助の基礎技術 (療養生活の環境、病室の環境アセスメント、人的環境) 病床の作成と環境整備	講義
第10回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	環境調整技術②	ベッドメイキング(クローズ・オープン)	演習
第11回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	環境調整技術②	ベッドメイキング(クローズ・オープン)	演習
第12回	溝口晶子	活動・休息の援助技術②	1. 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	演習
第13回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	活動・休息の援助技術③	体位変換	
第14回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	活動・休息の援助技術③	体位変換	演習
第15回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里	活動・休息の援助技術④	移乗・移送 車椅子・ストレッチャー	演習

	井上由美子 岡本靖子			
第 16 回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	活動・休息の援助技術④	移乗・移送 車椅子・ストレッチャー	演習
第 17 回	溝口晶子	環境調整技術③	臥床患者のリネン交換	講義
第 18 回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	環境調整技術④	臥床患者のリネン交換	演習
第 19 回	溝口晶子 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 竹井千里 井上由美子 岡本靖子	環境調整技術④	臥床患者のリネン交換	演習
第 20 回	竹井千里	ヘルスアセスメント①	1. ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントを行うことによって何がわかるのか 観察・重要な視点 2. バイタルサインとは 3. バイタルサイン測定方法(体温・脈拍・呼吸・意識レベル)、測定値の判断・記録	講義
第 21 回	竹井千里	ヘルスアセスメント①	1. ヘルスアセスメントとは ヘルスアセスメントを行うことによって何がわかるのか 観察・重要な視点 2. バイタルサインとは 3. バイタルサイン測定方法(体温・脈拍・呼吸・意識レベル)、測定値の判断・記録	講義
第 22 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント②	バイタルサイン測定方法(体温・脈拍・呼吸・意識レベル)	講義
第 23 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント②	バイタルサイン測定方法(体温・脈拍・呼吸・意識レベル)	演習
第 24 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント③	バイタルサイン測定方法(血圧)	演習
第 25 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子	ヘルスアセスメント③	バイタルサイン測定方法(血圧)	講義

	溝口晶子 井上由美子 岡本靖子			
第 26 回	竹井千里	ヘルスアセスメント④	1. 呼吸器系の問診、視診、触診及び打診 呼吸音の聴取、心臓・血管系の問診、触診、打診	演習
第 27 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント⑤	呼吸器系、循環器系のフィジカルアセスメント	演習
第 28 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント⑤	呼吸器系、循環器系のフィジカルアセスメント	演習
第 29 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント⑥	脈拍・体温・呼吸・血圧測定についての技術チェック	演習
第 30 回	竹井千里 権藤多栄 山口今日子 丸山智子 溝口晶子 井上由美子 岡本靖子	ヘルスアセスメント⑥ 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）のまとめ	脈拍・体温・呼吸・血圧測定についての技術チェック 看護援助技術Ⅰ（看護基本技術）のまとめ	演習

#### 授業概要

看護技術は、対象となる人々の健康レベルに応じてまた、安全・安楽に配慮し、看護するための基本である技術の知識・技術・態度を修得することを目指す。看護技術の中で最も基本的なものであり重要である。  
看護援助技術Ⅰでは、援助的人間関係形成・コミュニケーションの方法、感染防止の技術、環境調整技術、活動・休息援助技術、ヘルスアセスメントとバイタルサイン測定について学ぶ。  
講義と演習で、構成しており看護の技術を学ぶ。

#### 授業形式

3コマ続きで10回の授業となります。

#### 評価方法

■定期試験 ■レポート ■その他(演習中の取り組み)

定期試験 60% レポート 20% 演習中の取り組み 20%

・出席状況は、出欠・遅刻・早退に応じて評定する。演習を重視するため、5コマ以上の欠席は原則として評価の対象としない。

・演習後レポートは、提出状況及びその内容について評価する。

・演習中の態度は、演習に際しての注意事項に記載されている事項について注意を受けた者は、回数に応じて減点する。

#### 教科書 (ISBN 番号)

医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」 ISBN978-4-260-01999-6、

医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[3]「基礎看護技術Ⅱ」 ISBN978-4-260-01579-0、

#### 参考書

その都度お知らせします。

#### オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

## 学生へのメッセージ

看護師が自分の判断のできる行為が日常生活援助です。看護の対象者の状態を的確に判断するための技術と、対象者の満たされていない日常生活を整えるための援助技術となります。

個々で学ぶ技術の善し悪しが、看護師としての評価に繋がるだけでなく、対象者との信頼関係にも大きく関連するので、しっかり身につけるよう学習を進めましょう。

### <演習前の準備>

#### 1)実習室入室前の準備

(1)ロッカーで更衣(原則として白衣, ナースシューズ, 白の靴下着用)を済ませ, 入室する。演習項目によっては別の指示が出る場合があるので, 指示書を確認する。

(2)白衣以外の場合でも, 以下の基準を守る。

上: 背中が出ない長さ, 襟元がつまった半袖, 下: ジャージ(演習によっては短パン), 白の靴下。

(3)髪は, 肩にかからないように整える。長い場合は, 一つに結んでネットでまとめる。前髪は目にかからない長さとする。横髪は, 垂れないようにピン等で留める。

(4)爪は短く切り, 清潔に整える。

(5)実習室には, 教科書・ノート・筆記用具・貴重品・指示された持参物品等のみ持ち込める。携帯電話の持ち込み, 講義室に荷物を放置することは禁止する。

#### 2)実習室入室後の準備

(1)開始5分前までに, 手洗いをすませ所定の位置につく。

(2)出欠表は, 開始5分前まで提示するので, 各自サインする。

(3)演習開始後は, 演習に必要な物品のみを出し, 私物は床頭台の中に収納する。

### <演習の進め方>

1)演習の手順書は原則として前週に配布するので, 手順を頭に入れて演習に臨む。

2)準備は, グループで協力して手順書で指示されたように整える。

3)演習前に, 教員によるデモンストレーションおよび, 安全・安楽に技術を提供するためのコツについて説明がある。各自, デモンストレーション用ベッドの周辺に集合する。

4)演習は, 1人看護師役, 1人患者役, 1人観察者, 1人記録者とする。

看護師役: 覚えて来た手順に沿って演習するが, 手順がどうしてもわからなくなった場合は, 記録者に確認する。ただし, 3番目, 4番目に行うものは, 自力で行う。

患者役: 患者役に徹する。不快に思うこと, 説明が不足することなど, 気づいたことは全て発言する。

その内容は, 記録者が手順書に記録する。

観察者: 看護師役が実施する技術を, 手順書, 講義内容およびデモンストレーションからの学びに照らし合わせ, 評価し, 記録者に伝える。

記録者: 患者役, 観察者のコメントを記録する。教員からのコメントも全て記録に残す。

### <実習室の使い方>

1)各自(各グループ)に割り当てられたベッドを責任もって使用する。

2)実習の目的以外でベッドを使用しない(荷物を置いたり, 自己の休息のために横になったりしない)。

3)演習終了後はサイドテーブル, 床頭台, ライト, 机, 椅子は所定の位置に戻す。

4)演習終了後は, クローズドベッドに整える。

5)演習開始時には, ベッド周囲のスペースを確保する。

6)実習室内で飲食は禁止する。

7)演習物品の使用時は, 教員の指示に従う。

8)演習終了後の後片付けについては, 演習計画書で指示したとおりとする。

9)ごみは, 大学の分類の指示に従って確実に分類する。

### <清掃担当について>

1)毎回, 演習終了時は3~4グループ交代で清掃, 片付け, 指示があれば次回の演習準備を行う。

2)清掃担当については, 清掃分担表(別紙配布)に従う。

3)清掃: 床清掃, 椅子やワゴンなどを動かしてから, 実習室・準備室など全体にクイックルワイパーをかける), 上拭き(机, ワゴン, サイドテーブル, 床頭台など)を行う。シンクは水分を残さないように拭き上げる。

4)清掃終了後は, 点検責任の学生が点検し完了後に, 点検教員に報告して確認を受けた上で終了する。

5)原則全ての演習終了後に, 実習室内の大掃除・物品整理を全員で分担して行う(別途指示する)。

### <演習中の事故防止と事故発生時の対応>

1)万一事故が発生した場合は直ちに教員に報告し, 必要時, 教員の指示のもと適切な対処をする。教員は学生への適切な対処を行うと同時に報告・確認・調整を行う。

2)事故発生後は適切な処置を終えたのち, 教員に相談の上でインシデントレポートを提出する。

3)物品の破損の場合は, 直ちに教員に報告し破損届けを提出する(過失による破損は学生保険払いとする)。

### <欠席者の取り扱い>

1)原則として欠席・遅刻は認めない。欠席した看護技術の修得に関しては自己責任とし, グループメンバーから指導を受けて自己練習によって補う。次回の演習に支障をきたさないよう速やかに対応すること。

2)4コマ以内の欠席であっても, 欠席した講義・演習の内容に応じて, 後日レポート提出や実技チェックを課す場合がある。演習担当教員とコンタクトを取るなど主体的な行動を求める。

### <その他>

1)演習開始時の役割分担(物品準備, 机・椅子などベッド周辺の片付け, 患者役等)と準備を早急に行い, 演習開始が遅れないようにする。

2)演習時は, 技術演習の到達度を優先するため, 上記努力にもかかわらず予定時間を延長する機会が多い。終了時間の確実な保障はで

きないので演習日のアルバイト等は控える。

3) 講義、演習日までに、事前・事後課題・演習ワークシート、その他指示された持参物に関する関連資料を確認の上で臨む。

4) 提出物が2枚以上になる場合、必ず綴じる。綴じていないものは受け取らない。

5) プリントを挟むバインダーを持参する。

6) 実習室に忘れ物をしないよう注意する(私物には、全て記名しておく)。

備考

講義コード	1N31300
講義名	看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
講師	◎ 権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
教授	長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
(非常勤)講師	岡本 靖子	指定なし

#### 一般目標(GIO)

看護の基礎的援助技術の学習や実技演習を通して、対象者のニーズに応じた看護援助に必要な基礎的技術や態度を身につける。

#### 到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー:(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー:(2)

1. 看護の視点で日常生活を援助する意義と、その実施にあたってのプロセスを説明できる。
2. 対象者および看護職者の安全と安楽を考えた看護援助が実施できる。
3. 食事(栄養摂取)の基本的な援助が実施できる。
4. 排泄の基本的な援助が実施できる。
5. 苦痛の緩和と安楽確保の援助技術ができる。
6. 活動状態と睡眠や休息の状態をアセスメントして、援助技術ができる。
7. 衣生活・清潔の基本的な援助技術が実施できる。
8. 療養中の対象者の日常生活を看護の視点で全体的に把握し、日常生活を整えることの大切さを説明できる。

#### 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	権藤多栄	講義ガイダンス 看護技術の基盤	・講義の進め方、履修上の注意 1. 医療安全の確保 2. 的確な看護判断と適切な看護技術の提供 3. 対象者に合わせて看護技術を想像する。 ・口腔の視診、下顎及び咽頭の動きの確認	講義
第2回	権藤多栄	食事援助技術①	1. 食事援助の基礎知識 食事と食生活援助、摂食・嚥下機能・栄養吸収のアセスメント 2. 食事摂取の援助方法	講義

			起座位・臥床患者の食事介助	
第3回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	食事援助技術②	食事摂取の介助 口腔の視診、下顎及び咽頭の動きの確認 臥床患者の食事介助	演習
第4回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	食事援助技術②	食事摂取の介助 口腔の視診、下顎及び咽頭の動きの確認 臥床患者の食事介助	演習
第5回	溝口晶子	排泄援助技術①	1. 腹部のフィジカルアセスメント 腹部の視診、触診、打診、腸の蠕動運動の聴診 2. 自然排尿および自然排便を促す援助 3. 対象の排泄状態・状況にあわせた援助 4. 排尿・排便のアセスメント	講義
第6回	溝口晶子 榎藤多栄 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術②	腹部の視診、触診、打診、腹囲測定 便器・尿器の装着と除去	演習
第7回	溝口晶子 榎藤多栄 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術②	腹部の視診、触診、打診、腹囲測定 便器・尿器の装着と除去	演習
第8回	溝口晶子	排泄援助技術③	・トイレにおける排泄介助:ポータブルトイレ ・おむつによる排泄援助 ・陰部洗浄	講義
第9回	溝口晶子 榎藤多栄 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術④	紙おむつの装着と除去 陰部洗浄	演習
第10回	溝口晶子 榎藤多栄 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術④	紙おむつの装着と除去 陰部洗浄	演習
第11回	岡本靖子	苦痛の緩和・安楽確保の技術①	1. 体位保持:良肢位とポジショニング 2. 電法:温電法・冷電法	講義
第12回	岡本靖子 榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子	苦痛の緩和・安楽確保の技術②	体位保持:ポジショニング 電法:氷枕、湯たんぽ	演習

第 13 回	岡本靖子 榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子	苦痛の緩和・安楽確保の技術②	体位保持:ポジショニング 罨法:氷枕、湯たんぽ	演習
第 14 回	溝口晶子	活動・休息援助技術	睡眠・休息の援助	講義
第 15 回	岡本靖子	清潔・衣生活援助技術①	1. 清潔・衣生活の援助 1) 衣生活、身体の清潔 2) 清潔の方法の種類と選択 3) 入浴・シャワー浴の効果と負荷 4) 清拭、寝衣交換、皮膚のアセスメント	講義
第 16 回	岡本靖子 榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子	清潔・衣生活援助技術②	1. 清潔・衣生活の援助 ① 清拭 ② 寝衣交換	演習
第 17 回	岡本靖子 榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子	清潔・衣生活援助技術②	1. 清潔・衣生活の援助 ① 清拭 ② 寝衣交換	演習
第 18 回	竹井千里	清潔・衣生活援助技術③	1. 清潔・衣生活の援助 1) 洗面・整容、口腔ケア、義歯の保護 2) 足浴 3) 洗髪	講義
第 19 回	竹井千里 榎藤多栄 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	清潔・衣生活援助技術④	1. 清潔・衣生活の援助 1) 口腔ケア 2) 足浴	演習
第 20 回	竹井千里 榎藤多栄 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	清潔・衣生活援助技術④	1. 清潔・衣生活の援助 1) 口腔ケア 2) 足浴	演習
第 21 回	長家智子	課題演習	詳細は授業中に説明する	演習
第 22 回	長家智子	課題演習	詳細は授業中に説明する	演習
第 23 回	竹井千里 榎藤多栄 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	清潔・衣生活援助技術⑤	1. 清潔・衣生活の援助 1) 洗髪	演習
第 24 回	竹井千里 榎藤多栄 溝口晶子 山口今日子 丸山智子	清潔・衣生活援助技術⑤	1. 清潔・衣生活の援助 1) 洗髪	演習

	井上由美子 岡本靖子			
第 25 回	榎藤多栄	看護援助技術 日常生活援助技術①	療養中の患者の日常生活を看護の視点で全体的にとらえる。 患者の立場を体験する。 生活者としての患者	講義
第 26 回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護援助技術 日常生活援助技術②	療養中の患者の日常生活を看護の視点で全体的にとらえる。 模擬患者 アセスメント バイタルサイン測定	演習
第 27 回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護援助技術 日常生活援助技術③	療養中の患者の日常生活を看護の視点で全体的にとらえる。 模擬患者:援助技術(体位変換・ポジショニング)	演習
第 28 回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護援助技術 日常生活援助技術③	療養中の患者の日常生活を看護の視点で全体的にとらえる。 模擬患者:援助技術(体位変換・ポジショニング)	演習
第 29 回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護援助技術 日常生活援助技術④	全体討議 日常生活援助技術	演習
第 30 回	榎藤多栄 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	看護援助技術 日常生活援助技術④  看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)のまとめ	全体討議 日常生活援助技術  看護援助技術Ⅱ(日常生活の援助技術)の振り返りと理解度確認	演習

#### 授業概要

看護の対象者の日常生活は、生活史やその環境によって異なり、個別的であり、自立的であることを講義と演習によって学ぶ。そのうえで、看護の対象者が日常生活に支障をきたしたり、健康障害のあらゆるレベルで医療機関を利用したり、その可能性を抱える時、どのような援助があるのかについて演習(実技)を含め学ぶ。演習においてはモデルを用いる方法あるいは学生が患者役、看護師役を果たすことにより相手の立場に立ち、相手を思いやる「心」と「技」そして、講義における知識を統合(一体に)し、人間の尊厳に配慮した看護とは何かを探究していく。つまり、これらを通して、支障なく日常生活をおくる意義を感じ、日常生活の援助技術をより確かなものにするための学びを深める。

#### 授業形式

後期 9 月 16 日(水)から 10 月 15 日(木)の水 & 木曜日の 3~5 限に 3 コマ続きで行います。

#### 評価方法

■定期試験 ■レポート

■その他(演習中の取り組み) 定期試験 60% レポート 20% 演習中の取り組み 20%

- ・出席状況は、出欠・遅刻・早退に応じて評定する。演習を重視するため、5コマ以上の欠席は原則として評価の対象としない。
- ・演習後レポートは、提出状況及びその内容について評価する。
- ・演習中の態度は、演習に際しての注意事項に記載されている事項について注意を受けた者は、回数に応じて減点する。

#### 教科書 (ISBN 番号)

医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護学[2]「基礎看護技術Ⅰ」ISBN978-4-260-01999-6、

参考書

その都度お知らせします。

オフィスパワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

<演習前の準備>

1)実習室入室前の準備

(1)ロッカーで更衣(原則として白衣, ナースシューズ, 白の靴下着用)を済ませ, 入室する。演習項目によっては別の指示が出る場合があるので, 指示書を確認する。

(2)白衣以外の場合でも, 以下の基準を守る。

上: 背中が出ない長さ, 襟元がつまった半袖, 下: ジャージ(演習によっては短パン), 白の靴下。

(3)髪は, 肩にかからないように整える。長い場合は, 一つに結んでネットでまとめる。前髪は目にかからない長さとする。横髪は, 垂れないようにピン等で留める。

(4)爪は短く切り, 清潔に整える。

(5)実習室には, 教科書・ノート・筆記用具・貴重品・指示された持参物品等のみ持ち込める。携帯電話の持ち込み, 講義室に荷物を放置することは禁止する。

2)実習室入室後の準備

(1)開始5分前までに, 手洗いをすませ所定の位置につく。

(2)出欠表は, 開始5分前まで提示するので, 各自サインする。

(3)演習開始後は, 演習に必要な物品のみを出し, 私物は床頭台の中に収納する。

<演習の進め方>

1)演習の手順書は原則として前週に配布するので, 手順を頭に入れて演習に臨む。

2)準備は, グループで協力して手順書で指示されたように整える。

3)演習前に, 教員によるデモンストレーションおよび, 安全・安楽に技術を提供するためのコツについて説明がある。各自, デモンストレーション用ベッドの周辺に集合する。

4)演習は, 1人看護師役, 1人患者役, 1人観察者, 1人記録者とする。

看護師役: 覚えて来た手順に沿って演習するが, 手順がどうしてもわからなくなった場合は, 記録者に

確認する。ただし, 3番目, 4番目に行くものは, 自力で行う。

患者役: 患者役に徹する。不快に思うこと, 説明が不足することなど, 気づいたことは全て発言する。

その内容は, 記録者が手順書に記録する。

観察者: 看護師役が実施する技術を, 手順書, 講義内容およびデモンストレーションからの学びに照らし合わせ, 評価し, 記録者に伝える。

記録者: 患者役, 観察者のコメントを記録する。教員からのコメントも全て記録に残す。

<実習室の使い方>

1)各自(各グループ)に割り当てられたベッドを責任もって使用する。

2)実習の目的以外でベッドを使用しない(荷物を置いたり, 自己の休息のために横になったりしない)。

3)演習終了後はサイドテーブル, 床頭台, ライト, 机, 椅子は所定の位置に戻す。

4)演習終了後は, クローズドベッドに整える。

5)演習開始時には, ベッド周囲のスペースを確保する。

6)実習室内で飲食は禁止する。

7)演習物品の使用時は, 教員の指示に従う。

8)演習終了後の後片付けについては, 演習計画書で指示したとおりとする。

9)ごみは, 大学の分類の指示に従って確実に分類する。

<清掃担当について>

1)毎回, 演習終了時は3~4グループ交代で清掃, 片付け, 指示があれば次回の演習準備を行う。

2)清掃担当については, 清掃分担表(別紙配布)に従う。

3)清掃: 床清掃(椅子やワゴンなどを動かしてから, 実習室・準備室など全体にクイックルワイパーをかける), 上拭き(机, ワゴン, サイドテーブル, 床頭台など)を行う。シンクは水分を残さないように拭き上げる。

4)清掃終了後は, 点検責任の学生が点検し完了後に, 点検教員に報告して確認を受けた上で終了する。

5)原則全ての演習終了後に, 実習室内の大掃除・物品整理を全員で分担して行う(別途指示する)。

<演習中の事故防止と事故発生時の対応>

1)万一事故が発生した場合は直ちに教員に報告し, 必要時, 教員の指示のもと適切な対処をする。教員は学生への適切な対処を行うと同時に報告・確認・調整を行う。

2)事故発生後は適切な処置を終えたのち, 教員に相談の上でインシデントレポートを提出する。

3)物品の破損の場合は, 直ちに教員に報告し破損届書を提出する(過失による破損は学生保険払いとする)。

<欠席者の取り扱い>

1)原則として欠席・遅刻は認めない。欠席した看護技術の修得に関しては自己責任とし, グループメンバーから指導を受けて自己練習によって補う。次回の演習に支障をきたさないよう速やかに対応すること。

2)4コマ以内の欠席であっても, 欠席した講義・演習の内容に応じて, 後日レポート提出や実技チェックを課す場合がある。演習担当教員とコンタクトを取るなど主体的な行動を求める。

<その他>

1)演習開始時の役割分担(物品準備, 机・椅子などベッド周辺の片付け, 患者役等)と準備を早急に行い, 演習開始が遅れないようにす

る。

2) 演習時は、技術演習の到達度を優先するため、上記努力にもかかわらず予定時間を延長するが多い。終了時間の確実な保障はできないので演習日のアルバイト等は控える。

3) 講義、演習日までに、事前・事後課題・演習ワークシート、その他指示された持参物に関する関連資料を確認の上で臨む。

4) 提出物が2枚以上になる場合、必ず綴じる。綴じていないものは受け取らない。

5) プリントを挟むバインダーを持参する。

6) 実習室に忘れ物をしないよう注意する(私物には、全て記名しておく)。

講義コード	1N31400
講義名	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	後期
講義区分	
基準単位数	2
時間	60.00
代表曜日	水曜日
代表時限	3時限
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
(非常勤)講師	岡本 靖子	指定なし

#### 一般目標(GIO)

治療・検査を受ける対象者に必要な看護を実践するために、基本的な診療技術に伴う看護についての知識・技術を習得する。また、治療・検査を受ける対象者の心理や看護者として必要な態度についても学ぶ。

#### 到達目標(SBO)

- ※対応するディプロマポリシー：(1)(2)  
 ※対応するカリキュラムポリシー：(2)
1. 演習で取り扱う看護技術について、一連の実施過程(留意点・根拠を含む)を理解し、基本的な技術を習得できる。
  2. 看護ケアに必要な感染予防の方法が実施できる。
  3. 症状・生体機能管理技術(検査時)における看護師の役割、主な検査の目的と検体の採取方法を理解し、モデルを用いた血液の採取方法を習得できる。
  4. 安全確保の技術を説明できる。(誤薬防止・患者誤認、薬剤・放射線の曝露の防止)
  5. 与薬の技術(薬物療法)における看護師の役割について説明できる。
  6. 呼吸を整える援助技術(酸素吸入、口腔・鼻腔内吸引)が実施できる。
  7. 治療的な排泄の援助(浣腸・導尿)が実施できる。

#### 授業計画表

回	担当教員	項目	内容	方略
第1回	長家智子	講義ガイダンス 診療補助技術	講義の進め方、履修上の注意など ・診療補助技術とは ・感染防止の技術、創傷管理の技術、無菌操作、与薬など身体侵襲を伴う看護行為 ・医療事故を未然に防ぐリスクの認識、リスクマネジメントの重要性、対象者への説明力	講義
第2回	竹井千里	感染防止の技術①	無菌操作 ・看護ケアと感染予防、体液・血液曝露と感染防止 ・感染性廃棄物 ・ラテックスアレルギーと感作予防	講義

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・無菌操作の基礎知識</li> <li>・保管方法、滅菌物の取り扱い</li> <li>・無菌操作の実際(滅菌のパックの取り扱い、滅菌手袋の着脱)</li> </ul>	
第3回	竹井千里 長家智子 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	感染防止の技術②	無菌操作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・滅菌パックの開封</li> <li>・滅菌手袋の着脱</li> <li>・滅菌手袋の着脱の技術チェック</li> </ul>	演習
第4回	竹井千里 長家智子 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	感染防止の技術②	無菌操作 <ul style="list-style-type: none"> <li>・滅菌パックの開封</li> <li>・滅菌手袋の着脱</li> <li>・滅菌手袋の着脱の技術チェック</li> </ul>	演習
第5回	溝口晶子	安全確保の技術①	安全確保の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントとセーフティマネジメント</li> <li>・医療事故・医療過誤</li> <li>・インシデントレポート、アクシデントレポート</li> <li>・患者誤認防止</li> <li>・転倒・転落防止</li> <li>・薬剤・放射線曝露の防止</li> </ul>	講義
第6回	竹井千里	検査時の援助①	症状・生体機能管理技術の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・診療介助時の看護師の役割と責任</li> <li>・検査の分類と種類</li> <li>・検査値に影響する要因</li> </ul>	講義
第7回	竹井千里	検査時の援助②	症状・生体機能管理技術の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・検査時の看護</li> <li>・検体採取(尿、便、喀痰)</li> <li>・生体検査、生体情報のモニタリング</li> <li>・静脈血採血法(真空採血管)</li> </ul>	講義
第8回	竹井千里 長家智子 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	検査時の援助③	静脈血採血法(真空採血管) <ul style="list-style-type: none"> <li>・物品準備から採血、後片付けまで</li> <li>・検体採取(血液)</li> <li>・検体の取り扱い</li> </ul>	演習
第9回	竹井千里 長家智子 溝口晶子 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	検査時の援助③	静脈血採血法(真空採血管) <ul style="list-style-type: none"> <li>・物品準備から採血、後片付けまで</li> <li>・検体採取(血液)</li> <li>・検体の取り扱い</li> </ul>	演習
第10回	溝口晶子	安全確保の技術②	誤薬防止 <ul style="list-style-type: none"> <li>・誤薬防止・誤認事故防止の基礎知識</li> <li>・誤薬防止の実際</li> <li>指示受け、準備段階、実施段階</li> <li>・針刺し事故予防の方法と血液曝露後予防策</li> </ul>	講義
第11回	長家智子	与薬の技術①	与薬の基礎知識 <ul style="list-style-type: none"> <li>・薬物療法と看護</li> <li>・薬物療法の効果、副作用の観察</li> <li>・6Rの原則、ダブルチェック</li> <li>・与薬の種類と投与方法</li> <li>経口与薬、吸入、点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬</li> </ul>	講義
第12回	長家智子	与薬の技術②	与薬の基礎知識 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 注射の種類と適応(皮内、皮下、筋肉内、静脈内)</li> <li>2) 注射器・注射針の取扱い</li> </ol>	講義

			3)薬液の準備(バイアル、アンプル)	
第13回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術③	薬液の準備 注射の準備 注射器と針の接続 アンプル・バイアルからの薬液の吸引	演習
第14回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術③	薬液の準備 注射の準備 注射器と針の接続 アンプル・バイアルからの薬液の吸引	演習
第15回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術④	技術チェック 注射の準備:アンプルからの薬液吸引	演習
第16回	長家智子	与薬の技術⑤	注射の実施方法(皮下注射、皮内注射) ・筋肉内注射の準備 ・筋肉内注射の実施	講義
第17回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術⑥	皮下注射、皮内注射(シミュレータ使用) ・注射器の準備、薬液の確認と準備 ・筋肉内注射法の実施・注射部位の選択と実施	演習
第18回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術⑥	皮下注射、皮内注射(シミュレータ使用) ・注射器の準備、薬液の確認と準備 ・筋肉内注射法の実施・注射部位の選択と実施	演習
第19回	長家智子	与薬の技術⑦	静脈注射 ・看護師の静脈内注射の実施範囲、静脈内注射の適応、静脈内注射の準備と実施方法 ・点滴静脈内注射の準備と実施方法 ・静脈内注射の実施における留意点 ・合併症の予防と対処方法	講義
第20回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術⑧	点滴静脈内注射の準備 ・注射針・点滴セットの接続とプライミング、滴下調整 ・点滴静脈内注射の実施(シミュレータ使用) ・血管穿刺、針・輸液セットの固定、抜針	演習
第21回	長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	与薬の技術⑧	点滴静脈内注射の準備 ・注射針・点滴セットの接続とプライミング、滴下調整 ・点滴静脈内注射の実施(シミュレータ使用) ・血管穿刺、針・輸液セットの固定、抜針	演習
第22回	岡本靖子	呼吸を整える技術①	・呼吸に関する基礎知識 酸素、酸素飽和度、生体情報のモニタリング	講義

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素吸入 酸素吸入を必要とする患者の観察、酸素吸入の種類(中央配管・酸素ボンベ、マスク・カニューレ)</li> <li>・気道を浄化する援助 ネブライザー吸入、口腔・鼻腔内吸引</li> </ul>	
第 23 回	岡本靖子 長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子	呼吸を整える技術②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素吸入(酸素ボンベ、中央配管方式)</li> <li>・口腔・鼻腔内吸引(シミュレーターを用いた一時的吸引)</li> </ul>	演習
第 24 回	岡本靖子 長家智子 溝口晶子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子	呼吸を整える技術②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸素吸入(酸素ボンベ、中央配管方式)</li> <li>・口腔・鼻腔内吸引(シミュレーターを用いた一時的吸引)</li> </ul>	演習
第 25 回	溝口晶子	排泄援助技術①	<p>治療的な排泄(排尿・排便)の援助 治療的排泄の基礎知識 薬物使用:経口薬、坐薬、浣腸 浣腸、摘便</p>	講義
第 26 回	溝口晶子 長家智子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術②	<p>治療的排泄技術 浣腸(グリセリン浣腸)</p>	演習
第 27 回	溝口 晶子	排泄援助技術③	<p>治療的排泄技術 導尿(一時的導尿、膀胱内留置カテーテル)</p>	講義
第 28 回	溝口晶子 長家智子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術④	<p>治療的排泄技術 浣腸(グリセリン浣腸) 導尿</p>	演習
第 29 回	溝口晶子 長家智子 竹井千里 山口今日子 丸山智子 井上由美子 岡本靖子	排泄援助技術④	<p>治療的排泄技術 浣腸(グリセリン浣腸) 導尿</p>	演習
第 30 回	長家 智子	看護援助技術Ⅲのまとめ	看護援助技術Ⅲ(診断・治療に伴う援助技術)の振り返りと理解度確認	演習

#### 授業概要

看護援助技術の診療の補助とは相対的医療行為であり、対象者にとって身体侵襲を伴う看護行為となる。そのため、医療事故を未然に防ぐリスクの認識、リスクマネジメントの重要性、対象者への説明力なども必要になる。よって看護基礎技術の基盤となる安全・安楽をより意識した行動が必要となる。

感染防止のための無菌操作、症状・生体機能管理技術(検査のための採血)、与薬・注射法、導尿・浣腸など治療・処置、検査時の看護技術を学ぶ。

具体的には講義、演習を通して診療に伴う対象者の心理的・身体的な苦痛を理解し、単にテクニックを学ぶのではなく、知的技術、身体的技能、人間関係技能が統合されることを目標としている。

授業形式
後期 10 月 28(水)から 11 月 26 日(木)の水&木曜日に、3～5 限 3 コマ続きで行います。
評価方法
<p>■定期試験 ■レポート</p> <p>■その他(演習中の取り組み) 定期試験 60% レポート 20% 演習中の取り組み 20%</p> <p>・出席状況は、出欠・遅刻・早退に応じて評定する。演習を重視するため、5コマ以上の欠席は原則として評価の対象としない。</p> <p>・演習後レポートは、提出状況及びその内容について評価する。</p> <p>・演習中の態度は、演習に際しての注意事項に記載されている事項について注意を受けた者は、回数に応じて減点する。</p>
教科書 (ISBN 番号)
<p>医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 「基礎看護技術 I」 ISBN978-4-260-01999-6、</p> <p>医学書院 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 「基礎看護技術 II」 ISBN978-4-260-01579-0、</p>
参考書
その都度お知らせします。
オフィスアワー(授業相談)
初回講義時、お知らせします。
学生へのメッセージ
<p>&lt;演習前の準備&gt;</p> <p>1)実習室入室前の準備</p> <p>(1)ロッカーで更衣(原則として白衣, ナースシューズ, 白の靴下着用)を済ませ, 入室する。演習項目によっては別の指示が出る場合があるので, 指示書を確認する。</p> <p>(2)白衣以外の場合でも, 以下の基準を守る。</p> <p>上: 背中が出ない長さ, 襟元がつまった半袖, 下: ジャージ(演習によっては短パン), 白の靴下。</p> <p>(3)髪は, 肩にかからないように整える。長い場合は, 一つに結んでネットでまとめる。前髪は目にかからない長さとする。横髪は, 垂れないようにピン等で留める。</p> <p>(4)爪は短く切り, 清潔に整える。</p> <p>(5)実習室には, 教科書・ノート・筆記用具・貴重品・指示された持参物品等のみ持ち込める。携帯電話の持ち込み, 講義室に荷物を放置することは禁止する。</p> <p>2)実習室入室後の準備</p> <p>(1)開始5分前までに, 手洗いをすませ所定の位置につく。</p> <p>(2)出欠表は, 開始5分前まで提示するので, 各自サインする。</p> <p>(3)演習開始後は, 演習に必要な物品のみを出し, 私物は床頭台の中に収納する。</p> <p>&lt;演習の進め方&gt;</p> <p>1)演習の手順書は原則として前週に配布するので, 手順を頭に入れて演習に臨む。</p> <p>2)準備は, グループで協力して手順書で指示されたように整える。</p> <p>3)演習前に, 教員によるデモンストレーションおよび, 安全・安楽に技術を提供するためのコツについて説明がある。各自, デモンストレーション用ベッドの周辺に集合する。</p> <p>4)演習は, 1 人看護師役, 1 人患者役, 1 人観察者, 1 人記録者とする。</p> <p>看護師役: 覚えて来た手順に沿って演習するが, 手順がどうしてもわからなくなった場合は, 記録者に確認する。ただし, 3 番目, 4 番目に行くものは, 自力で行う。</p> <p>患者役: 患者役に徹する。不快に思うこと, 説明が不足することなど, 気づいたことは全て発言する。</p> <p>その内容は, 記録者が手順書に記録する。</p> <p>観察者: 看護師役が実施する技術を, 手順書, 講義内容およびデモンストレーションからの学びに照らし合わせ, 評価し, 記録者に伝える。</p> <p>記録者: 患者役, 観察者のコメントを記録する。教員からのコメントも全て記録に残す。</p> <p>&lt;実習室の使い方&gt;</p> <p>1)各自 (各グループ)に割り当てられたベッドを責任もって使用する。</p> <p>2)実習の目的以外でベッドを使用しない(荷物を置いたり, 自己の休息のために横になったりしない)。</p> <p>3)演習終了後はサイドテーブル, 床頭台, ライト, 机, 椅子は所定の位置に戻す。</p> <p>4)演習終了後は, クローズドベッドに整える。</p> <p>5)演習開始時には, ベッド周囲のスペースを確保する。</p> <p>6)実習室内で飲食は禁止する。</p> <p>7)演習物品の使用時は, 教員の指示に従う。</p> <p>8)演習終了後の後片付けについては, 演習計画書で指示したとおりとする。</p> <p>9)ごみは, 大学の分類の指示に従って確実に分類する。</p> <p>&lt;清掃担当について&gt;</p> <p>1)毎回, 演習終了時は 3～4 グループ交代で清掃, 片付け, 指示があれば次回の演習準備を行う。</p> <p>2)清掃担当については, 清掃分担表(別紙配布)に従う。</p> <p>3)清掃: 床清掃 椅子やワゴンなどを動かしてから, 実習室・準備室など全体にクイックルワイパーをかける), 上拭き(机, ワゴン, サイドテーブル, 床頭台など)を行う。シンクは水分を残さないように拭き上げる。</p> <p>4)清掃終了後は, 点検責任の学生が点検完了後に, 点検教員に報告して確認を受けた上で終了する。</p> <p>5)原則全ての演習終了後に, 実習室内の大掃除・物品整理を全員で分担して行う(別途指示する)。</p>

<演習中の事故防止と事故発生時の対応>

- 1) 万一事故が発生した場合は直ちに教員に報告し、必要時、教員の指示のもと適切な対処をする。教員は学生への適切な対処を行うと同時に報告・確認・調整を行う。
- 2) 事故発生後は適切な処置を終えたのち、教員に相談の上でインシデントレポートを提出する。
- 3) 物品の破損の場合は、直ちに教員に報告し破損届けを提出する(過失による破損は学生保険払いとする)。

<欠席者の取り扱い>

- 1) 原則として欠席・遅刻は認めない。欠席した看護技術の修得に関しては自己責任とし、グループメンバーから指導を受けて自己練習によって補う。次回の演習に支障をきたさないよう速やかに対応すること。
- 2) 4コマ以内の欠席であっても、欠席した講義・演習の内容に応じて、後日レポート提出や実技チェックを課す場合がある。演習担当教員とコンタクトを取るなど主体的な行動を求める。

<その他>

- 1) 演習開始時の役割分担(物品準備、机・椅子などベッド周辺の片付け、患者役等)と準備を早急に行い、演習開始が遅れないようにする。
- 2) 演習時は、技術演習の到達度を優先するため、上記努力にもかかわらず予定時間を延長する機会が多い。終了時間の確実な保障はできないので演習日のアルバイト等は控える。
- 3) 講義、演習日までに、事前・事後課題・演習ワークシート、その他指示された持参物に関する関連資料を確認の上で臨む。
- 4) 提出物が2枚以上になる場合、必ず綴じる。綴じていないものは受け取らない。
- 5) プリントを挟むバインダーを持参する。
- 6) 実習室に忘れ物をしないよう注意する(私物には、全て記名しておく)。

講義コード	2N31700
講義名	基礎看護学実習 I
(副題)	
開講責任部署	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
時間	45.00
代表曜日	
代表時限	
科目分類名	基礎看護学分野
科目分野名	基礎看護学
対象学科・年次	看護学科・1年次
必修/選択	必修

#### 担当教員

職種	氏名	所属
教授	◎ 長家 智子	基礎看護学領域 看護師免許保有
講師	権藤 多栄	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	溝口 晶子	基礎看護学領域 看護師免許保有
助教	竹井 千里	基礎看護学領域 看護師免許保有
准教授	中村 真理子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	山口 今日子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	丸山 智子	成人看護学領域 看護師免許保有
助教	井上 由美子	成人看護学領域 看護師免許保有
講師	山本 弘恵	高齢者看護学領域 看護師免許保有
講師	小山 記代子	小児看護学領域 看護師免許保有
講師	川口 弥恵子	母性・助産学領域 看護師・助産師免許保有
助教	小川 有希子	地域看護学領域 看護師・保健師免許保有
准教授	園田 和子	公衆衛生看護学領域 看護師・保健師免許保有

#### 一般目標(GIO)

看護の対象に早期に接触することで、様々な看護の対象や看護の場、看護の実際を知り、看護学の学習の動機づけにできる。病院で実施されている看護業務の流れに沿って行動し、患者の生活および看護の実際を知る。医療に関わる一員として、基本的態度を身に付けることができる。

#### 到達目標(SBO)

※対応するディプロマポリシー：(1)(2)

※対応するカリキュラムポリシー：(2)

1. 看護の対象となる人々が関わる医療の場を理解することができる。
2. 看護の対象者となる人々を、地域で生活している生活者としての視点から理解することができる。
3. 医療に関わる一員として、基本的態度を身に付けることができる。
4. 日常生活行動のニーズに関する看護技術の意義を理解することができる。
5. 指導のもとで対象と実際に接触し、コミュニケーションをとることを試みる。

#### 授業計画表

回	項目	内容	方略
第1回	基礎看護学実習 I	実習方法は、別途実習要項を参照	実習

#### 授業概要

早期体験実習として実際の医療現場に初めて足を踏み入れる。看護職が活動する病院において、看護職や病院で働く多職種の活動を見学及び体験し、保健・医療・福祉分野への関心と理解を深める。また、看護活動の実際を見学・体験することで、看護の役割や機能、保健・

医療・福祉の連携の必要性や患者を取り巻く環境について学び、医療に携わる一員としての基本的態度を身につけるとともに、具体的な看護援助のイメージができ、看護学を学ぶ動機づけとなることを目指す。

授業形式

実習

評価方法

■実習評価 実習評価基準による評価

教科書 (ISBN 番号)

看護学概論、看護援助技術 I (看護基本技術) で使用した教科書

参考書

その都度お知らせします。

オフィスアワー(授業相談)

初回講義時、お知らせします。

学生へのメッセージ

大学を離れ、病院という看護の対象者の療養の場を実習場所として使用します。そのため、学生といえども看護者の一員としての態度が求められます。前期開講科目をしっかり学び、身につけておくことを求められます。

実習に当たっての諸注意は、後日連絡し実施します。病院実習では、患者や医療従事者間の感染を予防するために、健康診断を受けていること、各種感染症の抗体を有していることなど、条件が設定されています。各自確認し、確実に実施して下さい。